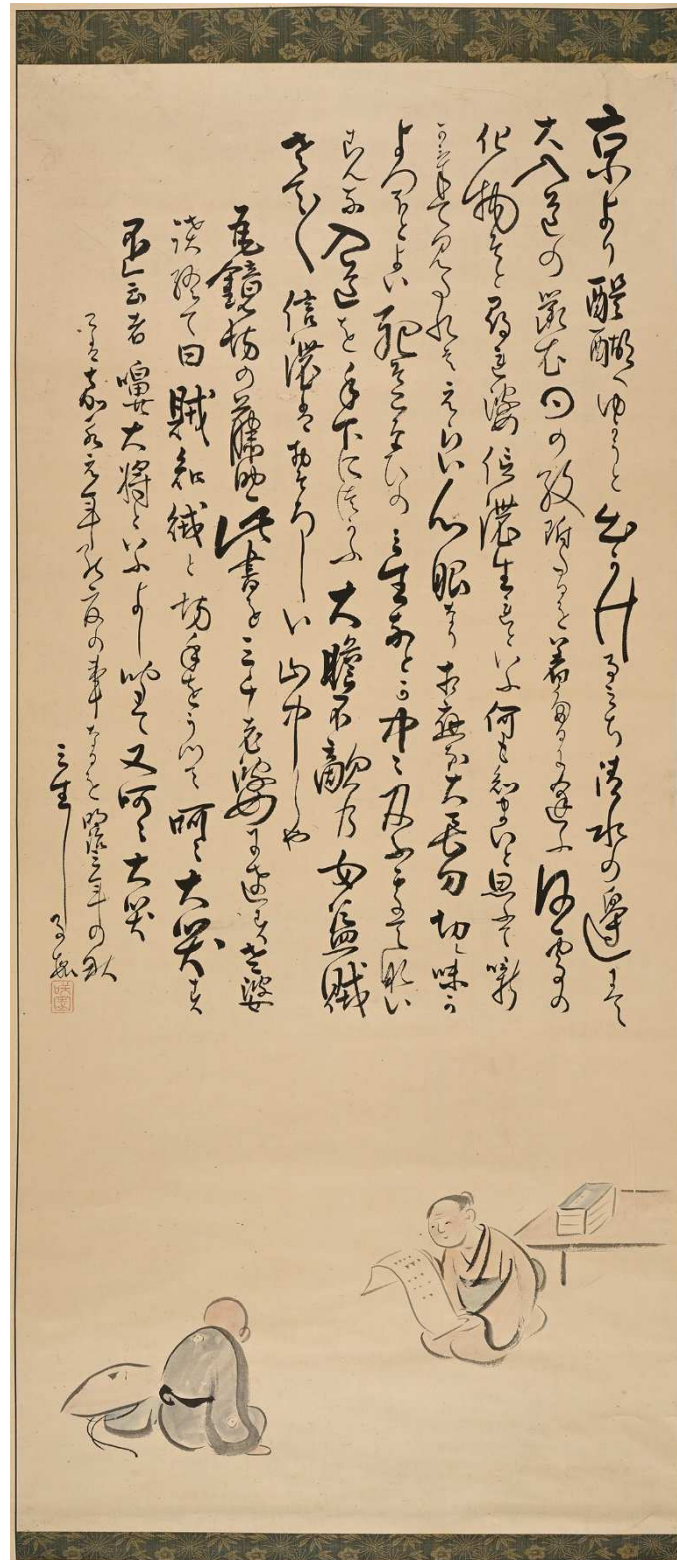


歴史研究所



松下千代姫と瓦鏡坊藤助の対談の図 柴田花守文・画 明治3(1870)年
松下祐輔氏所蔵文書より(松下祐輔氏寄託)

はじめに

飯田市歴史研究所は、平成14年10月に準備室が開設され、平成15年12月に正式に発足した。

「現在及び未来の市民のために、歴史的価値を有する記録を収集し、保存して、広くその利用に供するとともに、歴史、文化等を科学的に調査研究して、これを叙述し、もって市民の教育、学術及び文化の向上発展並びに活力ある地域社会の創造とその持続に寄与する」ことを目標として、調査・研究・市誌編さん・教育・出版活動を軸に多様な活動に取り組んでいる。

1 基本的な方向性と重点目標

リニア中央新幹線や三遠南信自動車道など新たな交通網の整備に伴い、飯田・下伊那は大きな変容を迎えつつある。これらに加え、大学や国の研究機関等の誘致、航空宇宙産業などの新たな産業の拠点化などは、この地域の生活や社会の基盤を大規模に変革させる可能性を持っている。一方で、地域全体が進む過疎化・少子高齢化は、豊かでかけがえのない歴史や文化を育んできた多くの集落や地区の存立を脅かしている。こうした中で、人びとの日々の営みを基礎とした歴史文化遺産(地域遺産)は今後の地域づくりの核となるものであり、それを収集、保存して地域に提供し、さらには調査・研究の成果を還元する取り組みを進めていく必要がある。

歴史研究所では、令和3年度(2021)から令和6年度(2024)を期間とする「第5期中期計画」を策定し、第4期中期計画における成果や課題を踏まえ、以下の重点目標を設定し、諸活動に取り組んでいる。

(1) 基本方針

- ①地域遺産(古文書、歴史的建造物等)を調査・研究しその保存と公開を図ることにより共有財産として、その成果を市民に還元する。
- ②戦争や災害、そして暮らしの記憶、また日々過去となりつつある現在を、オーラル、映像、写真などで記録し、歴史資料とすることをめざす。
- ③調査・研究は、飯田市を中心に、歴史的に密接な関係にあったことを踏まえ、広く下伊那の全域も対象とする。また、関連する諸地域も含めて包括的に活動を進める。
- ④歴史研究所は「地域史研究の拠点」に加え「地域遺産保全の取組」及び「地域連携」でも拠点となることを目指す。
- ⑤歴史研究所の取組の諸成果を地域市民や国内外に広く発信し、交流の相互拡大を図る。

(2) 重点目標

- ① 地域アーカイブズ事業の拠点化
地域遺産の中核に位置づく地域アーカイブズ(地域史料)の調査・収集・整理を速やかに進め、保存や公開を図る。
- ② 地域遺産の再発見
各地域に豊かに積層する歴史や文化の達成物全てを地域遺産として再発見し、地域市民と共に、それらの調査・研究や未来への継承などに取り組む。
- ③ 地域市民との連携
各地域で取り組まれている地域市民自らによる史料調査や地域の学習・研究活動と協働する。
- ④ 地域史研究・地域遺産保全を通じた交流
歴史研究所は、地域史研究と地域遺産保全の拠点として、飯田・下伊那の史料保存機関や博物館・資料館、地域史研究団体との交流・連携を積極的に進める。
- ⑤ 恒久的施設への移転
第5期中期計画期間中に、歴史研究所の施設や環境について、他機関との連携・協働に留意し、方向性を検討する。

2 基本的事業活動

(1) 史料調査

個人の家や区、学校など地域に残された古文書・古記録などの文献史料調査、オーラル史料の収集、歴史的建造物・歴史的景観調査など史料調査活動を多様に進める。

(2) 研究活動

史料調査活動に基づいて、基礎研究・基礎共同研究に持続的に取り組む。また、研究活動を促進させるため、地域史研究集会など各種の研究会を開催するとともに、その成果は『飯田市歴史研究所年報』などで公表する。

(3) 教育・普及活動

調査・研究活動の成果を地域市民へ不断に還元するために、また地域市民の学びの場を提供するために、「飯田アカデミア」、「地域史講座」、「各地区の公民館や高校、小中学校への出前講座」、「ゼミナール」、「公開史料調査」等の活動を実施する。

(4) 研究者養成と地域連携

歴史研究所は、飯田・下伊那の地域史研究の更なる活性化を目指し、市民研究員制度を柱とした研究者養成や、地域史研究団体との協働にこれまで以上に取り組む。

(5) 地域史編さん・出版事業

地域史料集（『飯田・下伊那史料叢書』）、「単位地域の全体史」、「テーマごとの地域史」の3種類を柱として、地域史編さん・出版事業に取り組む。

3 沿革

平成9年4月	市制70周年に向けた市誌編さん事業開始
平成13年4月	事業の見直しを決定
7月	飯田市長から飯田市誌編さん事業有識者会議に対し、飯田市誌編さん事業について諮問
平成14年4月	飯田市誌編さん事業に関する答申
8月	飯田市誌編さん事業 今後の方向（中期的計画）について
9月	任期付研究員条例制定
10月	地域史研究事業準備室設置 第1回地域史研究集会「語りつぐ飯田・下伊那の歴史」
平成15年10月	飯田市歴史研究所条例制定
12月2日	飯田市歴史研究所開所
平成17年3月	貴重書庫室整備
平成19年7月	飯田市歴史研究所実績報告書（2003－2006）作成（公表）
平成20年3月	飯田市歴史研究所第2期中期計画の策定（公表）
平成22年11月	『飯田・上飯田の歴史』（仮題）刊行計画の策定（公表）
平成24年6月	飯田市歴史研究所実績報告書（2007－2011）作成（公表）
7月	飯田市歴史研究所第2期実績の自己点検・内部評価の実施（公表）
8月	飯田市歴史研究所第2期実績の外部評価報告（公表）
9月	『飯田・上飯田の歴史』上巻刊行
12月	飯田市歴史研究所第3期中期計画（案）についての市民意見の公募
平成25年2月	飯田市歴史研究所第3期中期計画の策定（公表）
3月	『飯田・上飯田の歴史』下巻刊行
平成28年8月	飯田市歴史研究所第3期実績の自己点検・内部評価の実施（公表）
8月	飯田市歴史研究所第3期実績の外部評価報告（公表）
12月	飯田市歴史研究所第4期中期計画（案）についての市民意見の公募

平成29年 4月	飯田市歴史研究所第4期中期計画の策定（公表）
9月	歴史研究所移転（旧鼎東保育園）
令和2年 8月	飯田市歴史研究所第4期実績の自己点検・内部評価の実施
9月	飯田市歴史研究所第4期実績の外部評価報告
令和3年 1月	飯田市歴史研究所第5期中期計画（案）についての市民意見の公募
4月	飯田市歴史研究所第5期中期計画の策定（公表）
令和6年 2月	飯田市歴史研究所設立20周年ワークショップ「地域の歴史を未来へ引き継ぐ」を開催

4 施設の概要

〔場所〕 飯田市鼎下山538番地 〔構成〕 交流・閲覧フロア、研修室、研究室、事務室、書庫

5 運営組織（令和6年4月1日現在）

所長 副所長

研究部 研究部長（所長兼務 会計年度任用職員）、研究員3（正規職員1、任期付職員2）、特任研究員2（会計年度任用職員）、調査研究補助員2（会計年度任用職員）、顧問研究員8（非常勤職員）、調査研究員8（委嘱）

総務係 総務係長、係員3（正規職員1、会計年度任用職員2）

6 令和5年度 事業報告

1. 調査研究活動

（1）研究計画に基づく研究活動

研究計画に基づき基礎研究及び基礎共同研究（基盤調査・課題研究・単位地域研究）を行う。

①基礎研究

研究員が個人で遂行する研究。研究員は毎年研究計画書を作成・提出し、歴史研究所研究部の承認に基づいて取り組む。期間は原則1年間。

研究テーマ	研究者
「小規模伝統都市・飯田の社会=空間構造」6	吉田 伸之 （研究部長）
「村と戦争」の総合的研究	大串 潤児 （顧問研究員）
森本州平日記を読む	加藤 陽子 （顧問研究員）
国指定史跡・恒川官衙遺跡の保存・活用を促進するための地方官衙（「評衙」・「郡衙」）と古代寺院（「評寺」・「郡寺」、「定額寺」）の研究	田島 公 （顧問研究員）
近世・近代の飯田町を中心とするネットワークの研究	多和田 雅保 （顧問研究員）
小学校の設置運営と地域の関わり 一日誌類の分析を中心に―	多和田 真理子（顧問研究員）
飯田下伊那の農協生活活動Ⅱ	安岡 健一 （顧問研究員）
下伊那地域における身分的周縁に関する研究	吉田 ゆり子 （顧問研究員）
近世信州伊那地域における村社会の構造―一座光寺村を素材として― 近世大平の社会構造と大平街道をめぐる流通	羽田 真也 （研究員）
近現代飯田・下伊那における地域経済と資源	伊藤 悠 （研究員）
明治期の地図・地籍史料に基づく地域景観の復元	岩田 会津 （研究員）

近世飯田町と周辺農村に関する基礎的研究	伊坪 達郎 (特任研究員)
幕末明治大正期、下伊那の結社の活動とその展開	竹村 雄次 (特任研究員)
樽木役の負担に関わる諸問題	前澤 健 (特任研究員)
飯田・下伊那の経済・経営史的研究	太田 仙一 (調査研究員)
下伊那の満洲移民 ―河野分村について― 飯田遊廓の研究 ―娼妓周旋業者と都々逸の研究―	齊藤 俊江 (調査研究員)
飯田下伊那地域の寺社と地域社会に関する基礎的研究	竹ノ内 雅人 (調査研究員)
養蚕地帯の地域社会構造と主体形成	田中 雅孝 (調査研究員)
近世の飯田・下伊那における領主間ネットワークと地域社会の総合的研究	千葉 拓真 (調査研究員)
満蒙開拓青少年義勇軍の送出についての史的研究 ―学校教育や役場等現場の関わりを中心に―	原 英章 (調査研究員)
山村の木材利用の手法に関する研究	樋口 貴彦 (調査研究員)
飯田下伊那における歴史的景観構造に関する研究	福村 任生 (調査研究員)
満洲移民送出及び引揚げに至る下伊那の社会と経済 満洲移民参加者の個人日記の翻刻と解説	本島 和人 (調査研究員)
青年会の研究 ―自主化運動の過程とその周辺―	栗谷 真寿美 (市民研究員)
飯田下伊那の戦時を読み解く ―川路の軍事郵便資料をおもな素材として―	上河内 陽子 (市民研究員)
近世清内路の社会構造	坂本 広徳 (市民研究員)
戦前の下伊那労働運動史	清水 迪夫 (市民研究員)
飯田の街角の文字デザインと歴史を見つめる	林 武史 (市民研究員)
ミチューリン会で菊池幸子が作り出した「場」	壬生 雅穂 (市民研究員)

②基礎共同研究

研究員や特任研究員が研究代表者となって研究組織を構成し、共同で遂行する研究。基礎共同研究同様、研究計画書を作成し、歴史研究所研究部の承認に基づいて取り組む。

期間は原則 2 ～ 5 年間。

基盤調査	A	史料所在状況調査	羽田 真也 (研究員)
	B	史料現状記録調査	羽田 真也 (研究員)
	C	オーラルヒストリー調査	竹村 雄次 (特任研究員)
	D	歴史的建造物調査	福村 任生 (調査研究員)
	E	歴史的公文書調査	竹村 雄次 (特任研究員) 前澤 健 (特任研究員) 羽田 真也 (研究員)
	F	在外史料調査	吉田 伸之 (研究部長)
課題研究	A	地方小都市の近代化過程における学校を中核とした 文化的ネットワーク構築	多和田 真理子(顧問研究員)
	B	山里の分節の把握 ―阿智村清内路を素材として―	吉田 伸之 (研究部長)
	C	南信濃山里社会の文化的景観とその歴史的形成過程に 関する基盤的研究	吉田 ゆり子 (顧問研究員)

単位地域 研究	A	飯田・上飯田	多和田 雅保（顧問研究員）
	B	座光寺	羽田 真也（研究員）
	C	川路	羽田 真也（研究員）
	D	山本	竹村 雄次（特任研究員）
	F	三穂	前澤 健（特任研究員）

（２）飯田市地域史研究集会の開催

第 20 回地域史研究集会 9 月 9 日・10 日 会場：飯田市役所会議室 参加者延べ 156 人

参加者内訳 9 月 9 日：会場 62 人・オンライン 30 人 9 月 10 日：会場 44 人・オンライン 20 人

飯田下伊那の学制と地域社会 ―「人づくり」から「ひとなる」へ―

9/9	第 1 部 飯田下伊那における学びのあゆみ		
	講演	地域と学校の関係史 ―地域にとっての学校／学校にとっての地域―	木村 元（青山学院大学）
	報告	小学校の設置・運営と地域社会 ―飯田下伊那の事例にそくして―	多和田 真理子 （顧問研究員）
	報告	地域と共に歩む下伊那農業高校	遠山 善治 （下伊那農業高校創立 100 周年記念誌編纂委員会）
	報告	「松下千尋日記」にみる農村青年の自己形成	田中 雅孝（調査研究員）
9/10	自由 論題 報告	飯田における百済系土器とその意義	春日 宇光 （飯田市教育委員会）
		明治・大正期の松川入における河川と山林利用	伊藤 悠（研究員）
	第 2 部 学びの歴史を記録し引き継ぐ		
	報告	満州開拓慰霊碑が子供たちに遺したもの ―千代小学校 6 年生の学び―	坂下 力（元千代小学校）
		記念誌の制作意義と学校に残したい資料について	田添 莊文 （竜丘小学校開校 150 周年記念誌編集責任者）
		住民による下市田学校の再生	松島 高根 （下市田学校応援隊）

（３）ワークショップの開催

7/6 (木)	研究者アーカイブズと地域史研究	会場：飯田市公民館 参加者 11 人
「啓静文庫」の概要と調査状況について		福重 恵子 （お茶の水女子大学大学院）
山口啓二と地域史研究―啓静文庫資料から考える		吉田 伸之（所長）
下伊那教育会参考館市村文庫と市村威人		伊坪 達郎（特任研究員）
飯田市座光寺地区における地域史研究の展開と研究者アーカイブズ		羽田 真也（研究員）

2/17 (土)	飯田市歴史研究所設立 20 周年ワークショップ 地域の歴史を未来へ引き継ぐ ー飯田下伊那地域史研究の現在ー	会場：飯田市勤労者福祉センター 参加者：会場 78 人オンライン 17 人 計 95 人
開会、趣旨説明		羽田 真也（研究員）
生きるための江戸時代史		多和田 雅保（顧問研究員）
歴史文化を活かした地域づくり ー座光寺の取組みー		田口 博人 （座光寺・歴史に学び地域をたずねる会）
建築史研究と地域		岩田 会津（研究員）
コメントー近現代史研究の立場からー		田中 雅孝（調査研究員）
コメントー満洲移民研究の立場からー		本島 和人（調査研究員）

（４）定例研究会の開催

開催日	内 容	担 当	場 所	参加者
8/26	貢租制度としての「樽木成」の成立	前澤 健（特任研究員）	歴史研究所	8 人
9/16	王子製紙の山林労働者雇用と地域社会	太田 仙一（調査研究員）	歴史研究所	9 人
11/25	明治期下伊那の文化と青年	竹村 雄次（特任研究員）	歴史研究所	11 人
1/27	近世大平の社会構造把握に向けて	羽田 真也（研究員）	歴史研究所	8 人
2/3	下伊那の広域景観：前・近世段階の試論	岩田 会津（研究員）	歴史研究所	11 人
3/16	経済更生運動の取組と広がり	伊坪 達郎（特任研究員）	歴史研究所	9 人

（５）史料研究ノート

開催日	内 容	担 当	場 所
5/26	松下祐輔氏所蔵文書	竹村 雄次（特任研究員）	歴史研究所
2/21	明治 20 年代の地図調製に関する資料の解説	福村 任生（調査研究員）	歴史研究所

（６）飯田市歴史研究所年報の編集・刊行

『飯田市歴史研究所年報』第 21 号 B5 サイズ 244 頁 400 部

分類	テーマ	執筆担当者
特集 満洲移民 ー下伊那から再考するー		
趣旨説明 特集「満洲移民 ー下伊那から再考するー」によせて		
第 1 部 満洲移民を再考する	日中戦争 ー戦争拡大の構図ー	加藤 陽子
	日中戦争下の募集と送出 ー地域指導者と下伊那の人びとー	本島 和人
	下伊那の中の満洲 ー原史料を読み解くー	齊藤 俊江
第 2 部 満洲移民と向きあう	満洲体験が人生の指針に ー看護師として生きるー	橋本 珠子
	沈黙を聴く ードキュメンタリーの現場からー	手塚 孝典
	想起と対話の「場」 ー記念館レポートー	三沢 亜紀

参加記	「語られにくさ」の克服に向けて	栗谷 真寿美
	「ゆめあるて」サテライト会場から参加して	松葉 孝子
研究ノート	17 世紀清内路における庄屋新蔵家の果たした役割	坂本 広徳
史料紹介	飯田歌舞伎座新史料	竹村 雄次
書評	牧原成征著 『日本近世の秩序形成 ―村落・都市・身分―』	前澤 健
調査報告	清内路建築実測調査Ⅱ	山里の建築研究会
	天龍社資料	太田 仙一
新刊紹介	田中雅孝著 『「松下千尋日記」にみる農村青年の自己形成 ―1920 年代を中心として―』	栗谷 真寿美
歴史研究所新刊紹介	史料で読む飯田・下伊那の歴史 3 『山里 南信濃のあゆみとくらし』	太田 仙一
飯田市歴史研究所 20 年間の活動記録(1)	飯田市地域史研究集会 基礎共同研究 基礎研究	
歴史研究所 2022 年度の記録	飯田アカデミア、飯田歴研賞 2022、共同研究成果報告、歴研ゼミナール・ワークショップの活動報告、スタッフ研究業績、歴史研究所活動報告	
	飯田・下伊那地域に関する歴史・民俗関係 図書・論文・研究ノート目録、投稿規定、編集後記	

(7) 研究活動助成事業

飯田下伊那地域の素材を用いたオリジナルな歴史全般の研究成果に対し助成を行い、地域史の研究を振興する。

申請件数 1 件、助成決定件数 1 件

研 究 課 題	研究者名	備 考
御林と江戸商人による請負 ―信州伊那郡南山漆平野を中心に―	島田 栞音	東京外国語大学

(8) 「飯田歴研賞 2023」表彰事業

飯田・下伊那の地域史研究における優れた研究や活動を表彰し、地域史研究の底辺を広げ、重層的な文化研究活動の環境を整える。

部 門	受 賞 作 品	受 賞 者
論文賞	「戦前期日本の「ファシスト」の在郷軍人への接近と乖離 ―北吟吉と長野県下伊那地域の在郷軍人を中心に―」	玉木 寛輝
奨励賞	『山吹駅 市田駅 開業 100 年記念誌 飯田線 駅えき 街まち 百年』	高森町飯田線開通 百周年記念事業実行 委員会

2. 教育活動

(1) 歴史研究所設立 20 周年関連事業

- ・歴史研究所設立 20 周年ワークショップ 2 月 17 日 飯田市勤労者福祉センターで開催
1. 調査研究活動 (3) ワークショップの開催に詳細を記載。
- ・歴研ニュース設立 20 周年特別号 (第 127 号) 12 月 1 日発行 A4 サイズ 8 頁 2000 部
歴史研究所の事業内容、設立して 20 年間の研究成果やあゆみ等を紹介しました。
- ・広報いいだ 2 月号に特集記事を掲載
歴史研究所の事業及び最近の研究成果を紹介、地域史研究の基になる自宅に残る古い文書や写真等がある場合は歴史研究所あてに相談をもらうよう周知しました。

(2) 飯田アカデミアの開催

市民を対象に、大学教育レベルの学術講座を開講。より多くの市民が聴講しやすいよう多彩な講座を企画している。

開催日	内 容	講 師	場 所	参加人数
6 月 24 日	ドキュメンタリーが記録した満州移民	手塚 孝典 (信越放送ディレクター)	飯田市公民館	会 66 On 68 計 134
7 月 22 日 23 日	人生百年時代の生き方を歴史に学ぶ	小林 千枝子 (作新学院大学名誉教授)	飯田市役所	会 51 On 22 延 73
2 月 24 日 25 日	城と城下町 ー米子城を事例としてー	金澤 雄記 (広島工業大学准教授)	飯田市役所	会 48 On 11 延 59
3 月 23 日 24 日	ロシア史を権力と民族から考える	池田 嘉郎 (東京大学大学院教授)	飯田市役所	会 65 On 25 延 90

(3) 地域史講座

開催日	内 容	講 師	場 所	参加人数
9 月 30 日	山里 南信濃のあゆみとくらし 「樽木と遠山六カ村」 「和田村の赤痢流行と行政の混乱」 「遠山の茶栽培と地域の変貌」	前澤 健 (特任研究員) 太田 仙一 (調査研究員) 田中 雅孝 (調査研究員)	南信濃公民館	17
10 月 21 日	百姓としての自覚 ー二木家文書から見た兵農分離ー	吉田 ゆり子 (顧問研究員)	龍江公民館	30

(4) 講座：講師派遣、出前講座等

各学校、団体、社会教育機関等の要請に応じて対応

開催日	内 容	講 師	依頼先 会 場	参加 人数
6月19日	探究学習 「歴史を知るおもしろさ」	羽田 真也（研究員）	飯田風越高校 同上	10
7月7日	飯田駅前トークイベント 「歴史を知るおもしろさ」	羽田 真也（研究員）	飯田市教育委員会 飯田市公民館	15
7月18日	羽場地区ふれあいサロン学習会 「上飯田旧羽場組の相互助け合 い」	伊坪 達郎 （特任研究員）	羽場公民館 同上	15
9月2日	南原 萩原家文書の解説	羽田 真也（研究員）	下久堅公民館 同上	12
9月23日	明治から大正時代の飯田歌舞伎 座のにぎわい	竹村 雄次 （特任研究員）	飯田信用金庫 飯田信用金庫本店	50
9月28日	「飯田下伊那における村社会の 歴史と現在」	羽田 真也（研究員）	リニア推進課 柳田国男館	20
10月1日	飯田市美術博物館文化講座 飯田歌舞伎座 ー明治飯田を彩 った芝居と相撲の殿堂ー	竹村 雄次 （特任研究員）	美術博物館 同上	41
10月8日	退公連三穂支部研修会 伊豆木小笠原氏と山	前澤 健（特任研究員）	退公連三穂支部 油屋	20
10月21日	ふるさとめぐり	前澤 健（特任研究員）	三穂小・三穂公民 館共催	120
11月16日	市民大学講座 樽木の渡入 ー江戸時代の三遠 南信のつながりー	前澤 健（特任研究員）	飯田市公民館 同上	80
11月24日	明治初期の地籍図とその背景	岩田 会津（研究員）	鼎歴史を学ぶ会 鼎公民館	15
12月2日	近世史セミナー 樽木渡入の実現過程 ー享保6 年を中心にー	前澤 健（特任研究員）	県立歴史館・信濃 史学会共催 県立歴史館	55

(5) 歴研ゼミナール及び市民協働ワークショップの開催

歴史の研究方法を学ぶ通年講座。参加者が「ともに学ぶ」ことを重視。

科 目	内 容	開催日	担 当
近世史ゼミ	「飯田御用覚書」を読む	第2・4 水曜日	羽田 真也（研究員）
近現代史ゼミ	・「胡桃澤盛日記」を読む ・「太平洋戦争への道」を読む	第4土曜日	田中 雅孝（調査研究員）
満洲移民研究ゼミ	満洲移民（青少年義勇軍）の実態と送出 の背景及びその周辺についての検討	第1土曜日	本島 和人（調査研究員） 齊藤 俊江（調査研究員）
思想史ワークショップ	・『日本近代文学評論選昭和編』を読む	第1・第3 水曜日	自主開催（H24年10月 以降）元思想史ゼミ

（６）市民研究員募集事業

市民研究員養成課程等による飯田下伊那の地域史を研究する人材育成
令和５年度は応募なし。

（７）美術博物館との共同事業

- ・古文書講座 ゼロから始める古文書 （美術博物館と分担）
- ・トピック展示の実施 8/29～10/15 於 美術博物館文化展示室
「飯田歌舞伎座－明治飯田を彩った芝居と相撲の殿堂－」
- ・美術博物館文化講座 10 月 1 日
「飯田歌舞伎座－明治飯田を彩った芝居と相撲の殿堂－」 竹村雄次（特任研究員）

（８）歴研ニュース発行

- ・市民、研究教育機関等に対し、歴史研究所の研究教育概要を案内。
A4 サイズ 4 頁カラー刷り、年 6 回 偶数月 1 日発行
- ・歴研ニュース 設立 20 周年特別号（第 127 号）の発行
2. 教育活動 （１）歴史研究所設立 20 周年関連事業に詳細を記載

（９）歴史研究・職場体験学習受入れ

飯田 OIDE 長姫高校 3 人 8/31～9/1 職場実習

（10）地域連携・支援

- ・座光寺：歴史に学び地域をたずねる会との協働、古文書講座
- ・川路：史料保存への協力
- ・伊賀良：絵地図史料のデジタル化と提供
- ・南信濃：学校科研と山里科研
- ・阿智村清内路：「清内路－歴史と文化」研究会調査＋論集研
- ・阿智村駒場：林茂伸氏・大石真紀子氏から文書・建築の調査協力依頼
- ・高森町吉田：木下光氏から建築調査依頼（金澤調査成果引継ぎ）
- ・箕輪町：飯田藩箕輪領の存在、 → 啓静文庫科研調査実施

3. 市誌編さん事業

- ・飯田下伊那地域史料現状記録調査報告書 3 『松下祐輔氏所蔵不二道等関係文書』刊行
A4 サイズ 276 (280) 頁 350 部

ゴシック太字は今年度刊行書籍

書 名	発 行 者	発行 年	判	頁数	カラー／ モノクロ	価 格 (円)
飯田市歴史研究所 年報 1	歴史研究所	2003	B5	194	モノクロ	1,300
飯田市歴史研究所 年報 2	歴史研究所	2004	B5	232	モノクロ	1,300
飯田市歴史研究所 年報 3	歴史研究所	2005	B5	208	モノクロ	1,300
飯田市歴史研究所 年報 4	歴史研究所	2006	B5	218	モノクロ	1,300
飯田市歴史研究所 年報 5	歴史研究所	2007	B5	232	モノクロ	1,500
飯田市歴史研究所 年報 6	歴史研究所	2008	B5	303	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 7	歴史研究所	2009	B5	268	モノクロ	1,800

飯田市歴史研究所 年報 8	歴史研究所	2010	B5	292	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 9	歴史研究所	2011	B5	278	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 10	歴史研究所	2012	B5	310	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 11	歴史研究所	2013	B5	244	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 12	歴史研究所	2014	B5	271	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 13	歴史研究所	2015	B5	260	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 14	歴史研究所	2016	B5	290	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 15	歴史研究所	2017	B5	265	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 16	歴史研究所	2019	B5	236	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 17	歴史研究所	2019	B5	214	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 18	歴史研究所	2020	B5	198	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 19	歴史研究所	2021	B5	251	モノクロ	1,800
飯田市歴史研究所 年報 20	歴史研究所	2022	B5	248	モノクロ	2,100
飯田市歴史研究所 年報 21	歴史研究所	2023	B5	243	モノクロ	2,200
地域史の現在 (年報別冊)	歴史研究所	2010	B5	130	モノクロ	800
下伊那のなかの満洲 1	満蒙開拓を語りつぐ会	2003	B5	160	モノクロ	500
下伊那のなかの満洲 2	満蒙開拓を語りつぐ会	2004	B5	238	モノクロ	500
下伊那のなかの満洲 3	満蒙開拓を語りつぐ会	2005	B5	253	モノクロ	500
下伊那のなかの満洲 4	満蒙開拓を語りつぐ会	2006	B5	276	モノクロ	500
下伊那のなかの満洲 5	満蒙開拓を語りつぐ会	2007	B5	273	モノクロ	500
下伊那のなかの満洲 6	満蒙開拓を語りつぐ会	2008	B5	219	モノクロ	500
下伊那のなかの満洲 7	満蒙開拓を語りつぐ会	2009	B5	244	モノクロ	500
下伊那のなかの満洲 8	満蒙開拓を語りつぐ会	2010	B5	264	モノクロ	800
下伊那のなかの満洲 9	満蒙開拓を語りつぐ会	2011	B5	367	モノクロ	1,000
下伊那のなかの満洲 10	満蒙開拓を語りつぐ会	2012	B5	354	モノクロ	1,000
資料集 時報・村報にみる 「満洲」移民	歴史研究所	2006	A4	384	モノクロ	1,000
満洲移民 (※)	歴史研究所	2007	B6	269	モノクロ	1,200
宮下功「満洲紀行」	歴史研究所	2017	A5	502	モノクロ	2,000
聞き書き飯田町の暮らし 1	歴史研究所	2005	B5	108	モノクロ	500
聞き書き飯田町の暮らし 2	歴史研究所	2006	B5	132	モノクロ	500
聞き書き飯田町の暮らし 3	歴史研究所	2007	B5	143	モノクロ	500
聞き書き飯田町の暮らし 4	歴史研究所	2010	B5	133	モノクロ	500
聞き書き飯田町の暮らし 5	歴史研究所	2013	B5	174	モノクロ	—
聞き書き飯田町の暮らし 6	歴史研究所	2015	B5	149	モノクロ	500
聞き書き飯田町の暮らし 7	歴史研究所	2018	B5	215	モノクロ	700
聞き書き飯田町の暮らし 8	歴史研究所	2021	B5	217	モノクロ	800
飯田市松尾新井	歴史研究所	2008	A4	371	モノクロ	2,000

森本家（大森本）文書						
松川町生田部奈 部奈一朗氏所蔵文書	歴史研究所	2011	A4	390	モノクロ	2,000
松下祐輔氏所蔵 不二道等関係文書	歴史研究所	2023	A4	276	モノクロ	3,100
古島敏雄著作集 （復刻 全10巻）	歴史研究所	2005	A5		モノクロ	50,000
古島史学の現在	歴史研究所	2005	A5	214	モノクロ	800
史料叢書 近世史料編1 飯田町役用古記録	歴史研究所	2009	A5	544	モノクロ	2,800
史料叢書 近世史料編2 勤向書上帳	歴史研究所	2015	A5	256	モノクロ	2,000
史料叢書 近世史料編3 延宝二年 飯田御用覚書	歴史研究所	2021	A5	263	モノクロ	2,800
史料で読む飯田・下伊那の歴史 松尾大森本の家と周辺の社会	歴史研究所	2009	B5	62	モノクロ	700
史料で読む飯田・下伊那の歴史2 川路のあゆみー近世から近代へ	歴史研究所	2021	B5	83	モノクロ	900
史料で読む飯田・下伊那の歴史3 山里 南信濃のあゆみとくらし	歴史研究所	2023	B5	84	モノクロ	1,300
わたしたちの飯田線	歴史研究所	2005	B5	47	カラー	1,200
水引のまち飯田	歴史研究所	2009	B5	48	カラー	1,500
飯田・下伊那の災害	歴史研究所	2016	B5	48	カラー	1,500
オーラルヒストリー1 いとなむ はたらく 飯田の あゆみ	歴史研究所	2007	B5	262	カラー／ モノクロ	1,100
オーラルヒストリー2 戦争と養蚕の時代をかたる	歴史研究所	2016	B5	288	カラー／ モノクロ	1,100
オーラルヒストリー3 生存の地域史をかたる	歴史研究所	2021	B5	309	カラー／ モノクロ	1,700
みる よむ まなぶ 飯田・下伊那の歴史	歴史研究所	2007	B5	131	カラー	1,700
史料叢書 建造物編1 本棟造と養蚕建築	歴史研究所	2011	A4	496	モノクロ	3,500
史料叢書 建造物編2 農村舞台	歴史研究所	2012	A4	245	モノクロ	2,000
飯田・上飯田の歴史 上巻	歴史研究所	2012	B5	372	カラー	3,000
飯田・上飯田の歴史 下巻	歴史研究所	2013	B5	378	カラー	3,000
『描かれた上飯田ー明治初 期の地引絵図をよむー』	歴史研究所	2014	B5	74	カラー	1,800
飯田・下伊那の歴史と景観	歴史研究所	2019	A5	205	カラー	2,000

伊那谷の暮らしと住まい	歴史研究所	2019	A5	50	カラー	1,000
飯田下伊那の少年たちの満州日記	歴史研究所	2019	B5	117	モノクロ	300
飯田下伊那の少年たちの満州日記(改訂版)	歴史研究所	2020	B5	119	モノクロ	300

(※) 2007 年発刊「満州移民」は第 13 回平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞受賞

◆完売した刊行物

- ・飯田市歴史研究所 年報 1 (2003 年)
- ・わたしたちの飯田線 (2005 年)
- ・資料集 時報・村報にみる「満洲」移民 (2006 年)
- ・満州移民 (2007 年)
- ・地域史の現在(年報別冊) (2010 年)
- ・下伊那のなかの満洲 1～8 (2003～2010 年)
- ・飯田下伊那の少年たちの満州日記 (2019 年)
- ・伊那谷の暮らしと住まい(2019 年)
- ・飯田下伊那の少年たちの満州日記(改訂版)(2020 年)

4. アーカイブズ保存活用事業

(1) 書庫内への文書保管作業及び史料公開

私文書の調査。維持管理が難しくなった文書の引き取り（寄贈・寄託）。整理作業を経て目録等の公開を行う。

(2) 非現用公文書の移管

令和 5 年度に廃棄対象となった文書（非現用公文書）のうち、歴史的価値あるものを歴史研究所に移管し、目録作成作業後、押洞書庫に保管。

(3) 学校史料所在調査

平成 15・16 年度に行った調査成果を踏まえ、前回の調査記録との照合や変化部分の記録、また未調査（前回調査時合併前の上村、南信濃地区等）及び追加確認したい学校の調査を行った。

5. 第 6 期中期計画策定の準備

歴史研究所では令和 7 年度(2025)から令和 10 年度(2028)を対象期間とする「第 6 期中期計画」を策定する。ついては第 5 期中期計画における成果や課題の抽出、内部及び外部評価などの準備を行いました。

【資料】研究集会及び教育・普及事業（各種講座等）への参加者数〔5年度及び過年度の実績〕

区 分	研究集会	アカデミア	ワーク ショップ	地域史 講座	定例 研究会	ゼミナール	合 計
令和5年度 開催回数	1	4	2	2	6	65	80
令和5年度 参加者数	156	356	106	47	56	508	1,229
令和4年度 開催回数	1	4	3	2	6	87	103
令和4年度 参加者数	244	170	142	60	67	548	1,231
令和3年度 開催回数	1	2	1	1	7	76	88
令和3年度 参加者数	100	89	80	20	48	455	792
令和2年度 開催回数	0	2	—	4	7	62	75
令和2年度 参加者数	0	34	—	120	81	433	668
令和元年度 開催回数	1	4	—	4	5	84	98
令和元年度 参加者数	163	301	—	205	54	505	1228
30年度 開催回数	1	4	—	5	6	88	104
30年度 参加者数	156	165	—	141	85	460	1,007
29年度	88	130	29	204	91	598	1,140
28年度	201	209	39	246	168	581	1,444
27年度	127	175	20	118	138	1,022	1,600
26年度	189	131	149	125	103	1,281	1,978
25年度	251	160	60	159	66	951	1,647
24年度	222	161	—	125	246	1,098	1,852
23年度	163	132	—	163	54	525	1,037
22年度	196	167	—	112	147	463	1,085
21年度	170	302	—	112	62	455	1,101
20年度	71	225	—	182	130	530	1,138
19年度	104	127	—	148	43	430	852
18年度	266	167	—	—	80	(878)	(1,391)
17年度	118	161	—	—	—	(989)	(1,268)
16年度	134	153	—	—	—	(779)	(1,066)
15年度	170	167	—	—	—	—	337

※18年度以前のゼミ参加者数は登録人数と回数から算出

※22年度の研究集会には「伝統都市の比較史」共催円座を含む

※29年度以前は参加者数